

開倫塾春期講習2016参加の常識

—開倫塾の春期講習会で2016年新学年の素晴らしいスタートダッシュをはかるために
行ったほうがよいこと—

開倫塾

塾長 林明夫

春期講習会だけではなく、4月に入り新学年になっても役に立つ効果の上がる学習方法をQandAの形でご紹介いたします。ご活用ください。

Q 1 : 「開倫塾春期講習2016参加の常識」とは何ですか。

A : 開倫塾の 2016 年度の春期講習会で、新学年の素晴らしいスタートダッシュをはかるために行ったほうがよいことがありますので、開倫塾を代表し、塾長としてここにまとめてお伝えいたします。塾生の皆様は、それらをよく「理解」した上で、この春期講習会に参加して頂きたいと思っております。



Q 2 : 「常識」とは何ですか。

A : (1) 開倫塾は、1979年に創業して今年で37年を迎える北関東では屈指の本格的な学習塾です。
(2) 開倫塾の 37 年の歴史と伝統を踏まえた上で、春期講習会ではこのようなことに気がつけて学んで頂ければ素晴らしいスタートダッシュがはかれるということがいくつかあります。
(3) それらを「春期講習会参加の常識」として心得て頂きたいと思い、「常識」という表現を用いました。

Q 3 : 春期講習会参加の常識として第 1 に大切なことは何ですか。

A : (1) 皆様全員は、開倫塾で学ぶ開倫塾の塾生です。塾生の皆様には「自覚を持って学ぶこと」を一番大切なこととしてお勧めしています。
(2) 特に、来春に受験をひかえる学年の塾生の皆様は「受験生としての自覚」を 1 日も早く持つことが何より大切です。

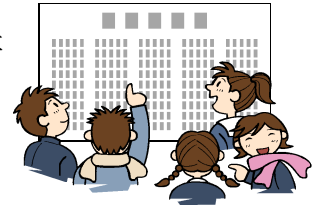
Q 4 : 受験生としての自覚とは何ですか。

A : (1) 自分は来年〇〇という学校を受験するということをはっきりと認識し、自覚することです。
(2) その意味で自分の行きたい学校、つまり、進学希望校を 1 日も早く決める必要があります。
(3) 1 年あれば、成績(偏差値)は大幅にアップ、上昇しますので、現在の偏差値と行きたい学校の偏差値にギャップ(へだたり)があっても OK です。行きたい学校、進学希望校をまずは決めてください。
(4) その上で、現在の自分の成績(偏差値)と、進学希望校の偏差値とのギャップを正確に認識、認めることが「自覚」です。
(5) この「自覚」さえきちんとできれば、あとは、ギャップを埋(う)めるための学習に打ち込

めばよいだけです。開倫塾の先生の指導に従い、受験の前日、いや、当日の試験問題が配られる直前までひたすら学び続けてください。

Q 5 : 来年は受験しない非受験学年の皆様の場合は、どのような「自覚」をしたらよいですか。

- A : (1)非受験学年であっても、2年後、3年後、または、4～5年後には受験が待っていますので、自分の行きたい学校をはっきり決めて、学習に励んでください。
- (2)できれば、自分はどのような人生を歩みたいのか、どのような仕事や社会的活動がしたいのかを少しずつでも考え、そのためにはどのような進路、特に希望校を選択すればよいかを考えてください。



Q 6 : 塾長の場合はどうでしたか。参考までに、具体的なお話をしてください。

- A : (1)私の場合は、小学校4年のときに担任の先生から小学校4年生になったら新聞を毎日読むように言われ、その通りにしましたので、中学生になると社会の問題についての関心はかなり強くなりました。そこで、中学校2年生のころには、弁護士か外交官、新聞記者などになりたいと考えるようになりました。
- (2)この希望をかなえるためには、高校に進学し、大学に入学して法律家になる「司法試験」や、外交官になる「外交官試験」、新聞記者になる「新聞社の試験」を受けて合格しなければなりません。それらの試験は相当難しいようだ、中学生ながら「自覚」したのです。
- (3)結果的に、高校は栃木県立足利高校を卒業し、大学は慶應義塾大学法学部法律学科を卒業しました。大学卒業後は、慶應義塾大学の法学部司法研究室に在籍、アルバイトで予備校や学習塾の講師、家庭教師をしながら弁護士、検察官、裁判官になるための司法試験を29歳まで受験し続けましたが、合格しなかったために受験を断念。その年の秋に開倫塾を創業し、今日に至っています。
- (4)ただし、このような「自覚」をしていましたので、各々の学校の勉強や法律の研究だけはすればするほど面白く、いくら時間があっても足りないと感じていました。
- (5)中学校や高校、大学、大学の研究室と、勉強だけは随分続けました。学校で学んだことは無駄ではなく、開倫塾や宇都宮大学などで教えるときや、いろいろな活動をする上で、また、日々の生活の上ですべて役に立っています。
- (6)むしろ、小学校や中学校、高校や大学でもっとちゃんと学んでおけばよかったと反省することの多い毎日です。

Q 7 : 自覚が大切なことはよくわかりました。春期講習会参加の常識の第2は何ですか。

- A : (1)大切なことの第2は、授業には真剣に、また、熱心に参加することです。
- (2)授業の遅刻や欠席、早退はできるだけ避けましょう。
- (3)開倫塾は学びの場ですので、質問はOKです。しかし、「おしゃべり」や「私語」は授業妨害になりますので、一切禁止です。注意しても「おしゃべり」や「私語」が止まらないときは、保護者に通知した上で通塾停止とさせて頂くことを予めご承知おきください。
- (4)開倫塾の授業の「予習」はできるだけ行ってください。

Q 8 : 予習は何のためにするのですか。

- A : (1) さすが開倫塾の塾生、よい質問(Good Question)です。
(2) 「予習」とは「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」です。
(3) 勉強するのに遠慮は一切ありません。学校のすべての教科書・教材も開倫塾のすべてのテキスト・問題集もそれらを手にした瞬間からどんどん予習をしてください。1日も早く1ページから最後のページまで1冊分の予習を終わらせてください。
(4) 予習の仕方は教科によって異なりますが、予習の目的は「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むこと」とすることを勧めします。



Q 9 : どのように予習をすればよいのですか。

- A : (1) 学校や開倫塾の先生の授業を聞くように、そこに書いてあることを一文字、一文字真剣に読み、「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかる、じっくりと「理解」することです。腑に落ちるまで、よくわかるまで「理解」することが大事です。
(2) しかし、よくわからないこともあります。「ことば」や「語句」の意味がわからないときには「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、「学年別参考書」を用いて調べること。調べたことはノートに書き写すことが予習として大切です。
(3) 計算や問題は必ずノートに解くこと。
(4) このようにして予習を終えたら、予習したところを声を出してスラスラとよく読めるようになるまで読む「音読練習」(かいしよ) をすること、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。計算や問題は見た瞬間に条件反射でパッパッと正しい答えが出るまで「計算・問題練習」を繰り返すことです。
(5) そして、「予習をしていてよくわからなかったところ」に自分なりの「よくわからないマーク(印)」をつけて、学校や開倫塾の授業に臨むこと。
(6) 授業中は予習でよくわからなかったところを中心に先生の話をよく聞くこと。それでもわからなかったら先生に質問すること。これが予習です。
(7) この予習の方法は、中学校よりは高校、高校よりは大学、大学よりは大学院で役に立ちます。社会に出て仕事や社会的活動をしたり、自分で勉強したりするときにはもっと役に立ちます。塾生の皆様にとって一生涯役に立つ予習の方法です。ですから、1日も早く身に着けてください。
(8) ただし、時間が相当かかります。時間がいくらあっても足りないほどかかります。その分、成績や偏差値は短期間で急上昇します。コツコツやり通せば、現在の偏差値に関係なく誰でも偏差値 70 突破は可能です。是非挑戦を。
(9) 新学年の学校の教科書を手にした瞬間からこの方法で予習をすれば、その教科は抜群の成績になります。ゴールデンウィーク終了までに、1教科でも多く教科書の予習をし終わらせてくださいね。

Q 10 : なるほど、予習が大事なのですね。第3に大切なことは何ですか。

- A : 予習や授業で「理解」した内容を正確に身に着けること、つまり「定着」が3番目に大切です。



Q11: 「定着」のためにやらなければならないことは何ですか。

A : (1) まずは、その日に授業でやったところまでをもう一度やり直すことです。どんなに忙しくても、その日に学校や開倫塾の授業で学習したことは必ずもう一度やり直してください。
(2) ノートもあとで授業を思い出しながら勉強しやすいように、見出しや番号をつけたり、大切なところは線で囲ったりしながら整理してください。マーカーできれいにマークすることもお勧めです。

Q12: もう一度やり直すとはどういうことですか。

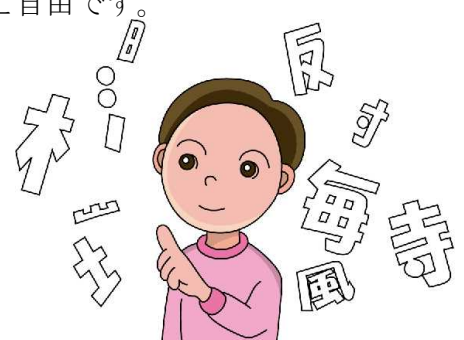
A : (1) 予習のところでもお話したように、教科書と教材、問題集、授業中のノートなどを丁寧に一語一語読み直すこと、計算や問題はノートにやり直すことです。そして、「ああ、これはこういうことなのか」と十分に納得し、よく「理解」することです。ものごとの本質を「理解」すること、「本質的理解」こそが授業後のもう一度やり直すことの目的です。
(2) そのために必要でとても役に立つのが、予習のところでも紹介した「辞書」(国語辞典、漢字(漢和)辞典、古語辞典、英和辞典、英英辞典など)や各教科の「用語集」「学年別の参考書」「資料集」です。
(3) これらは、武士が闘うときの刀(かたな)、つまり「武士の刀」と同じです。身近に持っているのと持っていないのでは、結果が天と地ほど異なります。また、せっかく持っていたても使いこなせなければ馬の耳に念仏、猫に小判と同じで、何の役にも立ちません。各々の「辞書」や各教科の「用語集」「学年別の参考書」「資料集」などの使い方についても、刀の用い方と同じように十分に勉強、練習し、1日も早く自分のものにしてください。

Q13: もう一度やり直すほかに、授業後に行ったほうがよいことはありますか。

A : 「定着」です。
「定着」とは「十分によく理解したことを確実に身に着けること」を言います。

Q14: 「定着」のためにしたほうがよいことは何ですか。

A : (1) 「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの練習です。
(2) 開倫塾では、この3つの練習のことを「定着のための3大練習」と呼んでいます。塾生の皆様も「定着のための3大練習」をしっかりと行い、十分に「理解」したことを確実に身に着けてください。
(3) 開倫塾では、「身に付ける」ではなく「身に着ける」という漢字を用います。「つける」を漢字で書くときには「付ける」も「着ける」も間違いではありませんが、「定着」の「着」と同じ漢字を使っています。どちらを用いるかは皆様のご自由です。



Q15:「音読練習」とは何ですか。

- A : (1)「音読練習」とは、スラスラとよく読めるようになるまで、できれば何も見ないで言えるようになるまで声を出して繰り返し読む練習のことです。
- (2)何も見ないでスラスラと言えるようになること、「暗唱(あんしょう)」が最終目標です。
- (3)英語や国語、社会はもちろんのこと、数学や理科も含めた全教科の「音読練習」に励んでください。



Q16:「書き取り練習」とは何ですか。

- A : (1)「書き取り練習」とは、楷書で書き順も含めて正確に書けるようになるまで繰り返し書く練習をすることです。
- (2)音読練習をして何も見ないで言えるようになった内容を、何も見ないで正確に書けるようにすること(これを「暗記」と言います)が、書き取り練習の目標です。

Q17:「計算・問題練習」とは何ですか。

- A : (1)これは「計算、ポチ、問題練習」と読みます。「・」を「ポチ」と読むことも覚えてください。
- (2)「計算・問題練習」とは、なぜそのような解答になるのかが十分に納得でき、よくわかった、つまり「理解」した計算や問題について見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るまで繰り返し計算や問題の練習をすることです。
- (3)正解がパッパッパッと出る計算や問題が多ければ多いほど、簡単な慣れ親しんだ計算や問題を解くスピードが早まります。その結果、少し難しい考えさせる計算や問題を時間をかけてゆっくりと解くことができます。
- (4)応用問題があまり得意でない塾生の皆様は、「計算・問題練習」を十分に行ってください。短期間で必ずよい成績・偏差値が取れます。

Q18:春期講習会参加の常識はほかにもありますか。

- A : (1)「読解力」を身に着けることです。
- (2)テストでよい点数を取るためには、そこに書いてあることがよくわからなければ話になりません。
- (3)しかも、試験時間内にすべての問題の本文、設問、選択肢を正確に読み込み、「理解」し、正解を自分の力で導き出すには、各教科の知識も大切ですが、「読解力」が欠かせません。

Q19:「読解力」はどのように身に着けたらよいのですか。

- A : (1)辞書を引いて引いて引きまくり、「ことばの数」「語彙数(ごいすう)」を増やすことが第1。
- ①「ことばは力」、身に着けている「ことばの数」「語彙数」は「力」です。
- ②このためには「意味調べノート」の活用が有効です。
- ③辞書で調べたことばの意味は必ず「意味調べノート」に書き写し、その場で覚えること。毎日1回は「意味調べノート」を1ページ目から読み直すことをお勧めします。

(2)本をじっくりと読むこと、つまり「読書」が第2。

①読書で身に着くのは「思慮深さ」と「読解力」です。

②本を読んでいて気に入ったところがあったら、「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でも書き抜いておくことをお勧めします。

③この「書き抜き読書ノート」を折に触れて1ページ目から読み直し、じっくりと考えると、「自分で考える力」を育てることができます。

④何を読めばよいか。私は、学校の各教科の教科書で紹介されている著者の作品、特に古典と呼ばれる作品をお勧めします。古典をじっくりと読むことで、「著者との時空を超えた対話」をすることができますよ。



(3)新聞を毎日一面からなめるように読むこと、つまり「新聞を読むこと」が第3。

①新聞を読んで身に着く力は「自分で考える力」と「読解力」です。新聞は社会が取り組むべき問題点を読者に伝えることを使命としますので、新聞をじっくりと毎日読むことで「批判的思考能力」が身に着きます。

②新聞を読んでいて気になった記事があったら、切り抜いてノートに貼り、「スクラップブック」をつくりましょう。時間があったら、切り抜いた記事についての感想や自分の意見も書いてみましょう。

Q20 : 辞書と読書、新聞の3つを活用して「読解力」を身に着けるのですか。よくわかりました。最後に一言どうぞ。

A : (1)開倫塾で学ぶ人には、開倫塾の塾生カードが全員に発行されます。開倫塾の塾生カードを持つ人はすべて「開倫塾の塾生」です。

(2)私は開倫塾の創業者、塾長として、塾生の皆様には、開倫塾で学ぶ間に「自覚を持って」「主体的に学ぶ力(自分から進んで学ぶ力)」、「自分なりの学習の方法」を身に着けて頂きたいと強く希望します。

(3)①自分の未来は自分で切り開く

②「自己責任」…自分の行動には自分で責任を負う

③「自助努力」…自分の身は自分で助ける努力をする

④「あきらめたらおしまい」

(4)「学力」(主体的に学ぶ力)が身に着き、学校の成績や偏差値が上がるとどうなるか。人生における選択肢がどんどん広がります。「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。

(5)今学校で学んでいる勉強はすべて役に立ちます。上級学校でも役に立ちますし、仕事をするときや社会で活動をするときにも、豊かな人生を歩むためにも役に立ちます。パソコンや英語なくしてよい仕事や活動は困難です。エクセル中級には高校2年の数学が必須です。高校2年(英検2級)くらいの英語力は必須です。国語や社会、理科すべてが仕事や社会での活動に必須です。実技4科も同様です。音楽や美術、技術家庭、保健体育の基礎知識は、人生を豊かにします。

(6)どうか、学校に加え、開倫塾で存分に学んで素晴らしい人生を歩んでください。

以上